

シリーズ クルマと今を生きる

第1章 私たちと車の未来 Vol.17

クルマのある暮らしは人生観そのものを変える――。

若者がクルマを所有しない時代、若者がクルマに魅力を感じない時代、そう言われる昨今においてなお、クルマに魅せられ、夢を抱き、心底楽しんでる若いクルマ愛好家が必ずいる。その姿と生の声を辿りながら、次世代へ引き継がれているクルマ愛をシリーズで検証。自動車免許取得を目指している方々に夢や希望をうかがう。

取材・写真/青柳 健司 (フォトライター)

【取材協力】**札幌谷内学園 札幌東自動車学校**

〒062-0052 札幌市 豊平区 月寒東2条10丁目 4-27
TEL 011-851-8151 理事長：谷内 昭治 学校長：平 通敬

創立70年の歴史を誇る北海道文化服装専門学校を運営する、学校法人谷内学園の設置校。公安委員会指定を受け、普通免許のほか二輪免許、大型特殊免許が取得可能。教習コースは、一般コース、定額コースのほか、特別料金となる学生コースも備え、市内数か所の大学・専門学校から送迎バスを運行。安全運転講習、高齢者講習など、各講習にも力を注いでいる。



やまのいあみ
山野井 有美さん

札幌市市在住。18歳。
北海道教育大学札幌校在籍

「クルマの運転は考えることが一度にたくさんあって、最初はすごく難しかったです。今はとても楽しいです」。

子供を見守りながら
成長したい!!!



たにくちあかり
谷口 朱里さん

札幌市市在住。20歳。
北海学園大学・経営学部在籍

「もしマイカーを買うなら、ボディカラーは派手でもいいけれど内装は落ち着いた色合いのものを選びたいです」。

もっとクルマ
を知りたい

人として成長するために

今春に市内の高校を卒業し、北海道教育大学札幌校に進学が決まっている山野井さん。中学生の頃から目標としてきた家庭科教員になるべく、一歩一歩着実に人生を進んでいる様子だ。曰く「教員という仕事は子どもたちの成長とともに、自分自身も成長できるものだと思います。そして、たくさんの人と接することができますので、その中で役に立てることに大きな生き甲斐を感じます」とニコニコ。公立の中学校の教員ともなれば、地方への転勤は避けられないが「必要とされるなら、どんな遠方でも行きます」と、すでに覚悟を固めていた。

そんな山野井さんにとって自動車免許は、職場となる学校への移動手段確保にあたって必要不可欠なもの。それを学業への差し障りのないこの時期に取得するのは、必然的な流れだった。その一方で「クルマに誰かを乗せて自分の運転でいつでも遠くへ行けるということは、とても魅力的ですよ」と微笑む山野井さん。そのワケは「友達と卒業旅行の計画を立てていたのですが、公共の交通機関を利用するとすると運航時刻表と自分たちのスケジュールがうまく合わなくて、そうこうしているうちに行程がなくなってしまいました。免許を取ったら好きな時に出かけられますから、友達とはあらためて私が運転するクルマで旅行に行きたい」とのことだ。

マイカー購入はまだまだ先の話だろうが、仕事の関係で東京に住んでいる姉が5年前に買った軽自動車を実家に残されているんです。今は母が仕事で使っていますが、時々は貸してもらえなくなっています。もちろん、大学が始まったら勉強が忙しくなると思いますが、運転もがんばりたいです」と瞳を輝かせていた。

業界を学び クルマの魅力に目覚める

「教習所に通っていることは友達にはナイショなんです。早く免許を取って、見せびらかしたいですね」と笑う谷口さんは、北海学園大学・経営学部で経営情報学を学び、取材時は間もなく3年生に進級しようとしていた。入学前でも卒業を控えた節目でもない、一見中途半端とも思えるこの時期に自動車免許取得を目指した理由は「3年になると何かと忙しくなってしまうので、逆に今通うしかなかったのだとか。と言うのも今春から同僚部の選ばれし30名の尖鋭たちにはビジネスモデルの作成やインターシップなどに挑む特別プログラムが設定されており、谷口さんはその一人として経営論をより専門的に学ぶことになっていった。」「土日関係なく勉強しなければならぬので、たぶん時間にも余裕がなくなってしまうと思います」と表情も引き締まる。ゆえに、3月下旬までには何とか自動車学校の卒検をパスしたいと、まさに奮闘の真っ最中であった。

そんな谷口さんにとっての自動車免許とは、将来企業人として当然取得しておかなければならない資格のひとつである。それでも、「クルマで遠くへ出かけることが大好きです。特に、気合の友達同士でたくさん話しながらドライブするのがとても楽しい。公共の交通機関だと、ほかの方々の迷惑になってしまうようなことでも、クルマなら大丈夫です」と微笑む。実は谷口さん、昨年はずいぶん自動車業界のあり方を学び、その一貫で日産自動車北九州の生産工場を見学してきたのだそう。その機会に「企業戦略や生産コストを下げるための工夫や取り組み、品質管理の体制を知り、もっとクルマのことを知りたいと思うようになりました」という。もしかすると近い将来、自動車メーカーの一線活躍する谷口さんの姿が見られるのかもしれない。